

【高齢者の生きがい】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

(13) これからの生活

これからの生活をどうしていくのかを真剣に考え、悩み、動揺し、不安を感じ、どれがベターな生き方なのかと選択し、未来の夢はあるのか、どの道が自分のものなのかなどを考えれば考えるほど、尽きることなくいろんなことが思いつき、何となく整理して未来を考えているのが現実だと思います。

世の中は無責任に平均的な生活を語り、悩むことなく生きて生けるように説明されている感があります。本当にそれを信じて生きて生けることなのか、今も昔も変わりなく語られているように感じます。

未来を感じ毎日を生活することは、素晴らしい人間の生き方だと思いますが、本当にそう思って生きているのでしょうか、そんなに単純な世の中ではないと思いますし、悩みが渦を巻いているのが現実の姿だと感じます。

未来の生活に悩みを感じ、それを解決する方法を持って生きているのでしょうか、解決方法が理解できても、現実かできるのか心配であり、そのことで疲れてしまうことが多くあると思います。

悩まないような生活を送ることができることは、本当はありえないように感じますし、具体的に一つ一つの内容を検討してみると、今置かれている状況では解決できないことが多くあります。その内容の一つは、金銭であり、もう一つは人間関係の問題です。どちらのことも深刻なものであり、解決とかベターな方法があるのかは捉えにくいものであり、それができれば悩みが少ない生き方が将来もできることになると思います。

将来の生活に生きがいを感じるができる状態は、どんな最低限の条件が存在し、何が問題なのかを明確にすることが必要です。自分で悩みを増やしてしまうことが現実には多くあり、悩みを避けることができないことも現実の問題です。悩みも人によって感じ方が異なることであり、開き直りのできることの大小にも影響があります。何とか死ぬことなく生活していることができ、それが未来を感じるのだと思って生きている人もいることでしょう。また、なんとかなるさという精神で強く生きていこうと感じ、思い、それが当たり前のことだと感じ、衣食住が何とかできれば、生きることに心配が生じないことであり、楽しいと思えばそれで良いということになるとしている人もいることでしょう。

何が必要なのか、何が不足なのかは人によって異なりますから、いろんなことがあり、いろんなことが過去からあり、いろんなことが実行されていたと思いますし、いろんな生き方があると思います。